

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### PBでヒット商品を出せば商品数を削減できる 大村 禎史 (西松屋社長)

1. 「国が豊かになるということは、モノや土地・設備と比べて、相対的に人のコストが高くなるということだ」。仕事の単純化や標準化を繰り返し、生産性を上げる努力を続けてきたのはそうした背景からです。人件費はこれからも上がっていくでしょう。なので生産性を上げなければ、収益性は落ちます。
2. 企業は、生産性を高めることができないときに、いわゆる「ブラック企業」と呼ばれる状態になってしまうのだと思います。生産性を高める観点で、日本の社会全体で考えなければいけないのが、「商品数が多すぎる」ということです。メーカーは似たような商品を出し過ぎていますし、それをそのまま売り場に並べると我々の生産性も落ちてしまう。日本社会全体が寄ってたかって商品数を多くして、不必要に忙しくしています。商品もサービスも過剰で、意味のない数量、機能が多すぎます。
3. PB (プライベートブランド) 商品を変えるため、電機メーカーなどからの中途採用を積極的に進めています。PBでヒット商品を出せば、逆に売れない商品を削っていくことで、総商品数を絞り込むことができます。川上の生産コスト、川中の物流コスト、そして川下の店舗運営コストなど、さまざまなコストが削減できるようになります。売り場や商品の「カイゼン」に終わりはないのです。

(参考:「日経ビジネス」2017年6月19日号)

## 人事・労務について

### 「ほめられ世代」にどう向き合うか

太田 聡一 (慶応義塾大学経済学部教授)

1. 「ほめられ世代」という言葉がある。1985年以降生まれの子どもに自信をつけさせるために親がほめて育てた世代のことを指す。心理学博士の榎本博明氏は、この世代が抱える問題点を指摘し、ほめられて育ったことにより生まれる自信は本物ではなく、「もろくて不安定な自信」だと主張する。彼らはほめて育てられたせいで叱責に弱く、傷つきやすいというのだ。
2. しかし、はれ物に触るような指導ばかりしていて、将来会社を支える人材になりうるのかについては疑問を感じざるをえない。また、ほめられ世代が責任あるポストに就いたときには、ほめられることを求め、失敗を恐れるあまりチャレンジを避けることも危惧される。

(参考:「週刊東洋経済」:2017年7月8日号)

## 経営者のための危機管理

### 内部通報に感謝する

山川 龍雄 (日経ビジネス編集委員)

1. 日本の大企業が、1つの投資の失敗や事業の損失で、会社を揺るがすほどの危機にひんすることは少ない。しかし、コンプライアンス (法令順守) 上の問題で、消費者や投資家の信頼を裏切った場合、その限りでない。
2. 東芝、タカタ、富士フィルムはいずれも危機対応の不手際から代償を払った。しかも、3社には共通事項がある。①海外事業の管理の甘さ②内部通報に対する後ろ向きな姿勢③外部への情報開示よりも社内論理を優先する文化だ。弁護士の久保英明氏は「内部通報をきちんと受け止めないから、従業員は外部に告発する。通報を握りつぶそうとする行為が、企業にとっても経営者にとっても、甚大な被害を与えることが分かっている」と指摘する。

(参考:「日経ビジネス」2017年7月17日号)

## 古典に学ぶ

### 武士道は国に生気を与える精神

(解説) 武士道は無意識的な抵抗できない力として、国民と個人をこれまで動かしてきた。近代日本の最も輝かしい先駆者の一人である吉田松陰 (1830~1859年) が、その処刑の前夜に詠んだ次の歌は、日本民族の正直な告白であった。「かくすればかくなるものと知りながら やむにやまれぬ大和魂」。武士道は私たちの国に生気を与える精神、すなわち運動力であったし、今もそうである。

(参考:佐藤全弘 (訳) 新渡戸稲造「武士道」:教文館)